

# 家庭学習の手引き

札幌市立東川下小学校

## 保護者の皆様へ

小学校の学習は、将来子どもたちが社会人として自立するための基礎となる大切なものです。東川下小学校では、子どもたちの学力向上に取り組んでいます。そのためには、御家庭の協力も必要です。家庭と学校が手を携えて子どもをはぐくんでいくことによって、子どもの力は何倍にも高まります。家庭学習の習慣化は、子どもの「生きる力」を高めていくことにつながると考えています。

この手引きを参考にしてお子さんとよく話し合い、学力向上にお役立てください。

## 家庭学習のよさは？

- 学校で学習した内容をより確かに定着させることができる。
- 自分から学ぶ学習習慣がつく。
- 自ら学ぼうとする態度が身に付き、学習に対する自信が高まる。
- 脳が活性化され、鍛えられる。
- がまん強さ・根気・集中力が身に付く。
- 家族がふれ合う機会にもなり、子どもの精神安定、心身も頭脳も健やかに育つ。



## 発達段階に応じて

- STEP1:保護者と一緒に
  - STEP2:保護者が見守りながら
  - STEP3:自分の力で
- 家庭学習に取り組ませます。

## 学力の高まりを支える生活習慣

確かな学力を身に付けさせるためには、基本的な生活習慣を身に付け、一日の生活のリズムをつかませることも重要だと言われています。家庭を学びの環境にし、自ら学ぶ子にしていくために、次のようなことに気を付けることも大切です。

- 大事な合言葉「早寝・早起き・朝ご飯（起床は6時半、就寝は8時～10時を目安に）」
- 毎日少しでも運動して、体を動かす習慣を。
- 自分で時間割や学習用具をそろえられるようにする。
- 家庭で学習に取り組む時間帯を、お子さんと一緒に話し合う。
- テレビ・動画視聴やゲームの時間について話し合う。
- 家族の一員として、お手伝いにも取り組ませる。



# 各学年で身につけたい力

## 習慣付けの1年生

- ①ひらがな、かたかなが読めて書ける。
- ②助詞（て・に・を・は）を、適切に使い分けて文章が書ける。
- ③80字の配当漢字のすべてが読め、8割ほどの漢字が書ける。
- ④えんぴつを正しく持って、字が書ける。
- ⑤たし算・ひき算ができる。



## 習慣が定着し始める2年生

- ①160字の配当漢字のすべてが読め、8割ほどの漢字が書ける。
- ②教科書がすらすら読める。
- ③順序よく話をするができる。
- ④九九がすらすら言える。
- ⑤たし算とひき算の筆算ができる。
- ⑥決められた長さの直線を正しく引ける。

## やる気や根気が育つ3年生

- ①200字の配当漢字のすべてが読め、8割ほどの漢字が書ける。
- ②国語辞典を使って言葉を調べられる。
- ③筋道を立てて、わかりやすく話したり、書いたりすることができる。
- ④簡単なわり算ができる。
- ⑤かけ算の筆算ができる。
- ⑥重さをはかり、表すことができる。
- ⑦千億の位までの数を読んだり、書いたりすることができる。



## 「9歳の壁」を破る4年生

- ①202字の配当漢字のすべてが読め、8割ほどの漢字が書ける。
- ②ローマ字の読み書きができる。
- ③国語辞典や漢和辞典を正しく使える。
- ④わり算の筆算ができる。
- ⑤文章題の意味が分かり、式を立てることができる。
- ⑥コンパスを使って簡単な図形がかける。
- ⑦地名が調べられ、47都道府県を覚えられる。

◆「9歳の壁」とは？…目で見たらすぐにわかることから、抽象的な学習内容が増えてくる時期。学習の理解が子どもにとって難しく感じられる境目でもあります。

## 学力の差が表れ始める5年生

- ①193字の配当漢字のすべてが読め、8割ほどの漢字が書ける。
- ②習った漢字を使った熟語の8割ほどが書ける。
- ③小数のかけ算・わり算ができる。
- ④分母が同じ分数のたし算・ひき算ができる。
- ⑤割合・百分率を使った問題が解ける。
- ⑥47都道府県の位置と県庁所在地がわかり、正しく書ける。

## 進学に希望をもたせる6年生

- ①小学校で習得すべき漢字のすべてが読め、8割ほどの漢字が書ける。6年生の配当漢字は191字。
- ②内容をとらえながら、様々な文章を読むことができる。
- ③分数のたし算・ひき算・かけ算・わり算ができる。
- ④歴史上の事件や人物について、だいたいわかる。
- ⑤世界のおもな国々と首都の位置を、正しく示すことができる。
- ⑥理科の基本的な原理や法則が分かり、実験道具の正しい使い方を知っている。

## 家庭学習の目安

「学年×10+10分間」以上、家庭で学習に取り組みましょう。

- 宿題
- 家庭学習ノート
- チャレンジなどのドリル など

※3年生以上は、1週間に1回以上、家庭学習に取り組むよう指導します。

# 3・4年生の家庭学習のポイント

## 中学年(3・4年生)はこんな時

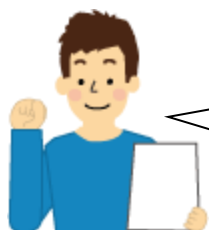
中学年は、次のような特徴があります。その特徴にあった家庭学習への取り組みませ方が大切です。

- 好奇心が旺盛で、行動範囲がぐんと広がります。
- 自立心が芽生え、自分でやってみようとするものが多くなります。やる気や根気が育つ時期です。
- 友達と行動することを好むとともに、口答えや反抗が少しずつ見られるようになります。



## 40~50分間に挑戦

中学年は40分以上の家庭学習にチャレンジさせます。



リコーダーの練習にも進んで取り組もう！

## ほめて励ます言葉かけ

- 「急に勉強が難しくなった」と戸惑いや苦手意識をもつ子が出てきます。自信をもたせたり、意欲をふくらませたりするような励ましが必要です。
- 他の子と比べるのではなく、昨日のわが子と比べてほめることが大切です。

## 家庭での援助

1・2年生での家庭学習の習慣化が役立ちます。

## 学校での学習の特徴

中学年での勉強は、次のような形で進められます。

- 低学年で学習した生活科がなくなり、社会・理科や総合的な学習が始まり、学習内容が大きく広がります。
- 資料集や地図帳、国語辞典や漢字辞典などを使い自分で調べる学習が多くなり、自学自習の基礎を学びます。
- 新出漢字は、3年生・200字、4年生・202字です。
- 算数では、分数や小数などの抽象的な内容を少しずつ学んでいきます。
- 四則計算(+-×÷)の基礎・基本を学習します。

- 家族のあたたかい助言や励ましの言葉でやる気を起こしたり、宿題や持ち物の点検をしたりなどの大人の手助けがまだ必要。徐々に自分でできるように支えていく。
- 自分から机に向かう姿勢を育て、集中して取り組めるようにする。
- 学習する前に、学習する場所の整理整頓を行い、自分で今日の宿題を確認させ、必ず最後までやり切らせる。学校からのお便りなどを手渡す習慣も付けさせる。
- 社会や理科で勉強する地域社会の文化や産業、自然などに触れる体験をさせるとよい。

3・4年生

# 家庭学習のやり方と内よう

## 家庭学習のやり方

- ①テレビやゲーム、音楽などを消しましょう。
- ②学習の進め方：学校からの宿題→自主学習→読書  
◇丸付けは、おうちの人におねがいしましょう。
- ③毎日（ ）分間くらい勉強します。  
◇おうちの人と話し合って決めてください。
- ④学習が終わったら、明日のじゅん  
びをします。時間わり、えんぴつ  
をけする、もち物の用意など。



毎日続けるようにがんばりましょう。

## 家庭学習の内よう(さん考にしてください)

### 国語

- 《音読》○いま勉強しているところを、何回読むか自分で決めて、声に出して読みましょう。(漢字を正しく、気持ちを含めて、聞いている人に意味がわかるように読みましょう。)
- 読んだら、教科書に読んだしるしを付けましょう。
- 《漢字》○今までの勉強した漢字、習った漢字をノートに練習しましょう。
- 見本を見ながら、「とめ」「はね」「はらい」に注意して、ていねいに。
- 漢字一つだけ書くのではなく、「じゅく語」や「短文」で書きましょう。
- れい：「算」→「算数」「計算」「計算ドリルをする」のように
- 国語辞典を使って、言葉の意味を調べましょう。
- 《日記・作文》
- その日のできごとや、考えたこと調べたことなどについて書きましょう。
- 題名を付けて、習った漢字を使って書きましょう。

### 算数

- その日に勉強したところの問題を家でも練習しましょう。
- 問題をといたら、丸付けをしましょう。
- 教科書やドリルの問題をくり返しふく習しましょう。まちがえたら、どうしてまちがえたのか考えて、まちがえなくなるまでやり直しましょう。
- 百マス計算のれん習をしましょう。

### その他

- 国語だけでなく、他の教科でも、その日に勉強したことや今度勉強するところを教科書で読んでみましょう。
- 勉強に関係あることを図かんや事てん・インターネットなどで調べてみましょう。ノートに書いたり、新聞にまとめてみたりするのもよいことです。

\*「家庭学習のやり方と内よう」は、お子さんと話し合うときに参考にしてください。